



若者の献血行動を促進する効果的な教育プログラムに関する研究

研究分担者

大川 聡子 (大阪府立大学地域保健学域看護学類)

研究協力者

安本 理抄 (大阪府立大学地域保健学域看護学類)

根来佐由美 (大阪府立大学地域保健学域看護学類)

上野 昌江 (大阪府立大学地域保健学域看護学類)

眞壁 美香 (大阪府立大学看護学研究科博士前期課程)

川口 広志 (大阪府赤十字血液センター南大阪事業所事業課)

藤原 弘明 (大阪府赤十字血液センター南大阪事業所事業課)

林 雅人 (大阪府赤十字血液センター南大阪事業所事業課)

森 とも子 (大阪府藤井寺保健所薬事課)

松田 岳彦 (大阪府藤井寺保健所薬事課)

山内 祥子 (大阪府藤井寺保健所薬事課)

酒井 典子 (大阪府藤井寺保健所企画調整課)

研究要旨

本研究の目的は、若者の献血及び輸血に対する意識について調査を行い、若者の献血行動や献血への意識を踏まえた効果的な献血啓発方法を明らかにすることである。28年度は若者の献血行動や献血への意識を把握するために、献血・輸血に関するアンケートを複数大学の学生に対して実施し、767名の回答を得た。

結果から、献血したいと思ったことのない者が242名(59.5%)であったことや、献血を敬遠しがちになる理由があると答えた者が55.4%と過半数を占めていることから、若者の献血離れがうかがえた。献血経験なしの者は、献血者が増える取り組みとして「職員が不安を聞いてくれる」と答えた者が有意に多かった。このことから、初めて献血を行なう若者に対しては特に、職員の丁寧な対応による不安の緩和が必要である。男女別の比較において、男性は献血をしたいと思う者が有意に少なく、献血に関する知識も乏しいことから、献血への関心を持ってもらうことが必要である。女性は、「友人に誘われて」献血する者や、他者に献血を勧めたり、啓発活動に興味を持つ者が男性より有意に多いことから、貧血対策とあわせて、仲間同士で誘い合うことのできるような環境づくりがより有効であることが示唆された。

1. 献血・輸血に関するアンケートの実施

研究目的

献血血液の安定的な確保のために、献血の意義や献血機会の拡大を啓発することは喫緊の課題である。しかし過去20年間で10代・20代の献血者総数は半分以下に減少している。大阪府においても若年層の献血者数の減少は著しく、近年で最も献血者数の多かった2001年と比較して、2014年の献血者数は20代で65%、30代で80%減少した。

本研究では若年層の献血を推進するために大学生に調査を行い、若者の献血行動や献血に関する意識を踏まえた効果的な献血啓発方法を明らかにする。

研究方法

A大学およびB大学の学生に対し、献血回数、初めて献血した年齢、献血した際の痛み、献血への意識、

献血に関する知識等について無記名自記式質問紙調査を実施した。調査期間は2015年11月～2016年6月。

調査依頼方法は、それぞれの大学に文書と口頭にて研究趣旨および内容を説明して研究協力を依頼し、研究協力の承諾を得た。講義終了後学生に対し、研究の趣旨・内容などを口頭と文書で説明し、調査票を配布し調査協力を依頼した。調査票の記入と、回収箱への投函をもって研究協力の同意を得たものとした。

(倫理面への配慮)

本研究結果は、献血に関する普及・啓発活動以外の目的では使用しないこと、回答は統計的に処理され個人が特定されないこと、回答しないことによる不利益がないこと、回答中止が可能であること等を文書および口頭にて説明した。本研究に関しては、大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会において承認を得た(承認番号27-53)。

結果

アンケート配布数は 947 名、回収数は 778 名 (回収率 82.2%)、有効回答数 767 名 (有効回答率 81.0%) であった。

10代、20代の回答者がそれぞれ 500 名 (65.1%)、260 名 (33.9%) と多くを占めていた。回答者の平均年齢は 19.4 ± 1.6 歳であった。男女別では、女性が 534 名 (69.5%) と多かった。家族形態では、家族と同居している人が 572 名 (74.6%) と多かった。

「若者」の範囲について統一的な定義は存在しないが、大辞林第三版 (三省堂) の「青年」の定義によると、「14.5 歳から 24.5 歳頃までをいうが、広く 30 代を含めている場合もある」とあり、また内閣府の子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者ビジョン」(2010 年)において、「若者」の用語を「思春期、青年期の者。施策によっては 40 歳未満までのポスト青年期の者も対象とする」としていることから、本研究においても 30 歳代までを若者と定義し、分析対象とした。

分析対象者の基本属性を表 1 に示す。

表 1 分析対象者の基本属性

		n=767	
	項目	人数	%
年齢	年齢階層区分		
	10歳代	500 (65.2)
	20歳代	260 (33.9)
	30歳代	3 (0.4)
	無回答	4 (0.5)
性別	男性	230 (30.0)
	女性	534 (69.6)
	無回答	3 (0.4)
家族形態	1人暮らし	191 (24.9)
	家族と同居	572 (74.6)
	無回答	4 (0.5)

1) 献血したいと思った経験

これまでに献血したいと思ったことがあるかについて (N = 407 ※) は、「はい」が 165 名 (40.5%)、「いいえ」が 242 名 (59.5%) であった。

※調査途中で追加した質問のため、分析対象者数 (n = 767) より回答者数が少ない。

2) これまでの献血回数

これまで献血したことが「あり」と答えた人は 116 名で全体の 15.1% であった (n = 767)。これまでの献血回数の内訳は「1 回」66 名 (56.9%)、「2 回」21 名 (18.1%)、「3～5 回」19 名 (16.4%)、「6～10 回」7 名 (6.0%)、「11 回以上」3 名 (2.6%) であった。

回数	男性 (%)	女性 (%)	計	%
1回	13 (19.7)	53 (80.3)	66	56.9
2回	7 (33.3)	14 (66.7)	21	18.1
3～5回	3 (15.8)	16 (84.2)	19	16.4
6～10回	1 (14.3)	6 (85.7)	7	6.0
11回以上	2 (66.7)	1 (33.3)	3	2.6
合計	21 (22.4)	90 (77.6)	116	100

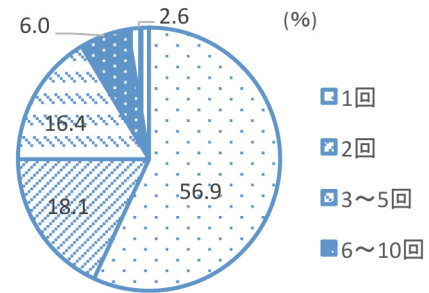


図 1 これまでの献血回数

3) 初めて献血した年齢

初めて献血した年齢 (n = 113) について、平均年齢は 18.4 ± 1.8 歳であった。内訳は 15～17 歳が 29 名 (25.7%)、18～19 歳が 63 名 (55.8%)、20～24 歳が 19 名 (16.8%)、25～29 歳が 2 名 (1.8%) であった。

年齢	男性 (%)	女性 (%)	計	%
15～17歳	9 (31.0)	20 (69.0)	29	25.7
18～19歳	9 (14.8)	54 (85.7)	63	55.8
20～24歳	5 (26.3)	14 (73.7)	19	16.8
25～29歳	1 (50.0)	1 (50.0)	2	1.8
合計	24 (21.2)	89 (78.8)	113	100.0

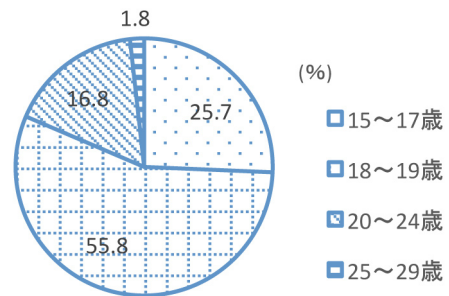


図 2 初めて献血した年齢

4) 献血した際の痛みの程度

献血した際の痛みの程度 (n = 114) について、「全く痛みがない」と回答した人は 14 名 (12.3%)、「ちょっとだけ痛い」が 65 名 (57.0%)、「軽度の痛みがあり少し辛い」が 23 名 (20.2%)、「中程度の痛みがあり辛い」が 10 名 (8.8%)、「かなりの痛みがありとても辛い」が 1 名 (0.9%)、耐えられないほどの強い痛みがある」が 1 名 (0.9%) であった。

	男性 (%)	女性 (%)	計	%
全く痛みがない	3 (21.4)	11 (78.6)	14	12.3
ちょっとだけ痛い	14 (21.5)	51 (78.5)	65	57.0
軽度の痛みがあり少し辛い	5 (21.7)	18 (78.3)	23	20.2
中程度の痛みがあり辛い	1 (10.0)	9 (90.0)	10	8.8
かなりの痛みがありとても辛い	0 (0.0)	1 (100.0)	1	0.9
耐えられないほどの強い痛みがある	1 (100.0)	0 (0.0)	1	0.9
合計	24 (21.1)	90 (78.9)	114	100.0

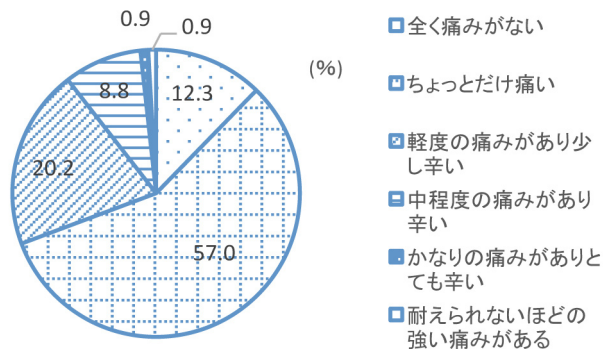


図3 献血した際の痛みの程度

5) 献血をしようと思った理由

献血をしようと思った理由 (n = 115) で最も多かったのは「自分の血液が誰かの役に立ってほしい」73名 (63.5%)、以降「粗品などがもらえるから」49名 (42.6%)、「血液検査の結果を知りたいから」38名 (33.0%)、「近くに献血車が来たから」32名 (27.8%)、「友人に誘われたから」30名 (26.1%)、「輸血用の血液が不足しているから」21名 (18.3%)、「なんとなく」20名 (17.4%)、「将来自分や家族が輸血を受けることがあるかもしれないから」20名 (17.4%)、「過去に家族などが輸血を受けたことがあるから」13名 (11.3%)、「習慣になっているから」3名 (2.6%) であった。

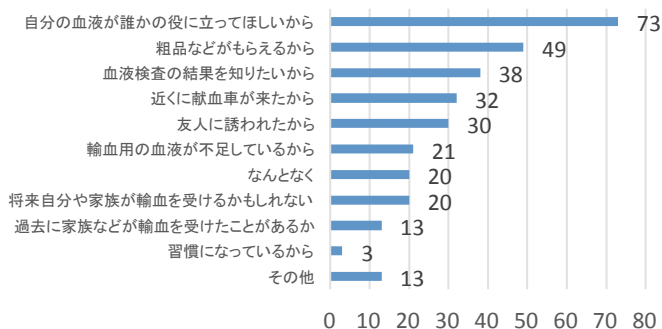


図4 献血をしようと思った理由 (複数回答)

6) 献血したいができなかった経験の有無

これまで献血したいと思ったができなかった経験について、「ある」と答えた人は 179 名で全体の 23.3% (n = 767) であった。

「ある」と答えた人 179 名の理由については「血色素量が低い」が 60 名 (33.5%) と最も多く、「服薬している」25 名 (14.0%)、「体重が基準に満たない」11 名 (6.1%)、「献血制限のある国への渡航歴がある」8 名 (4.5%)、「血圧が高い」5 名 (2.8%)、「献血間隔が短い」4 名 (2.2%)、「一定期間内に予防接種を受けた」「輸血を受けた」は 0 名であった。(注:「体重が基準に満たない」「一定期間内に予防接種を受けた」「輸血を受けた」の回答項目は途中追加項目)

その他 78 名 (43.6%) の内訳としては、時間がかかる、体調不良、治療中等の理由であった。

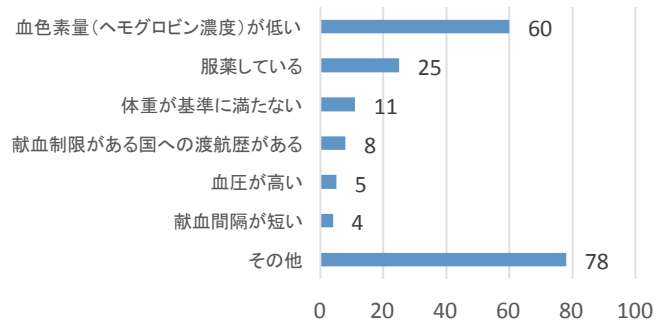


図5 献血できなかった理由 (複数回答)

7) 献血車等の情報入手経路

献血車等の情報入手経路 (n = 617) で最も多かったのは、「ポスター」295 名 (47.8%) であった。以降、「口コミ」133 名 (21.6%)、「ネット・スマホ・携帯」81 名 (13.1%)、「校内放送」42 名 (6.8%)、「テレビ」17 名 (2.8%)、「新聞」7 名 (1.1%)、「雑誌」3 名 (0.5%)、「ラジオ」1 名 (0.2%)、「その他」123 名 (19.9%) であった。

その他の内訳としては、実際に来ているのを見かける、呼び込み等であった。

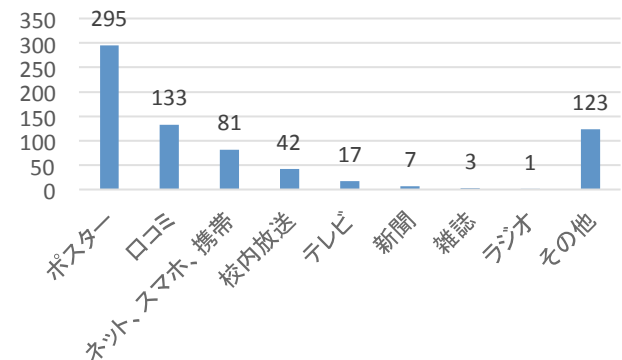


図6 献血車等の情報入手経路 (複数回答)

8) 若年層の献血件数に関する認知

最近若年層の献血件数が減少していることを知っていますか、という設問では「はい」と答えた人が 328 名 (43.0%)、「いいえ」と答えた人が 435 名 (57.0%) であった。

9) 献血をする人が増えると思う取り組み

献血をする人が増えると思う取り組み (n = 754) について、「会場に入りやすい雰囲気」が 372 名 (49.3%) と最も多く、以降「短い時間で献血できる」319 名 (42.3%)、「誘い合う家族・仲間がいる」292 名 (38.7%)、「献血会場が身近にある」287 名 (38.1%)、「針の痛みが弱く感じられる(麻酔など)」274 名 (36.3%)、「献血が自分の健康管理に役立つ」225 名 (29.8%)、「献血の情報を得る機会が増える」194 名 (25.7%)、「職員が献血の不安を聞いてくれる」43 名 (5.7%)、その他 50 名 (6.6%) であった。

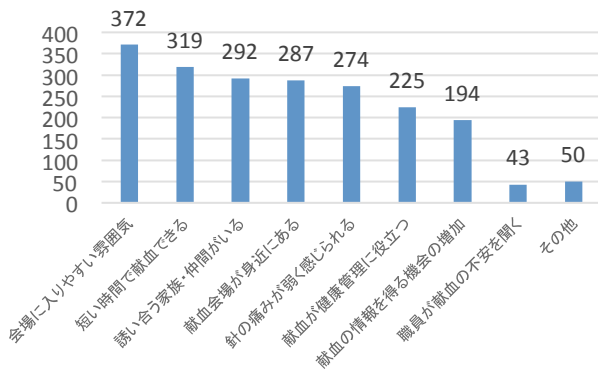


図7 献血をする人が増えると思う取り組み（複数回答）

10) 献血を他の人にも勧めているか

献血を他の人にも勧めていますか、という設問では「はい」と答えた人は95名(12.6%)、「勧めたいと思うが実際には勧めたことはない」185名(24.6%)、「いいえ」471名(62.7%)であった。

	男性(%)	女性(%)	計	%
はい	9(9.5)	86(90.5)	95	12.7
勧めたいと思うが実際には勧めたことはない	39(21.2)	145(78.8)	184	24.6
いいえ	176(37.5)	293(62.5)	469	62.7
合計	224(29.9)	524(70.1)	748	100.0

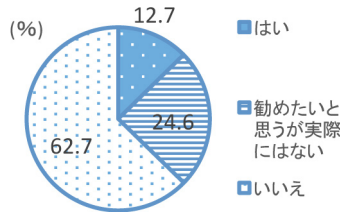


図8 献血を他の人にも勧めているか

11) 献血を誰に勧めているか

献血を他の人に勧めたことがある人(n=95)に対し、献血を誰に勧めているかについて、「友人」と答えた人が81名(85.3%)と最も多く、次いで「家族」30名(31.6%)、「恋人」10名(10.5%)、「知人」4名(4.2%)、「親戚」「職場の人」「その他」各2名(各2.1%)であった。

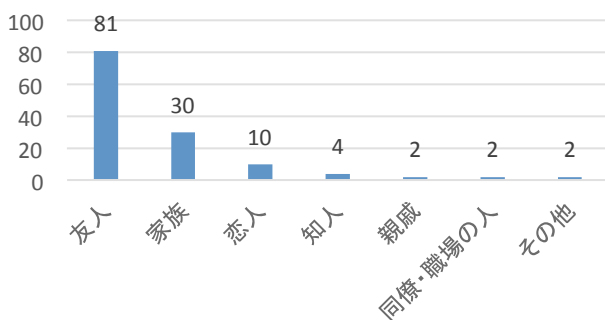


図9 献血を誰に勧めているか（複数回答）

12) 他の人に献血を勧めない理由

献血を他の人に勧めたことがあるかの設問で、「実際に勧めたことはない」「いいえ」という人(n=656)に対し、他の人に献血を勧めない理由は、「なんとなく」229名(34.9%)、「自分も献血をしたくない」125名(19.1%)、「忘れてしまう」77名(11.7%)、「面倒くさい」74名(11.3%)、「勧める相手がない」54名(8.2%)、「時間がかかる」37名(5.6%)、「気恥ずかしい」18名(2.7%)、「場所が遠い」17名(2.6%)であった。

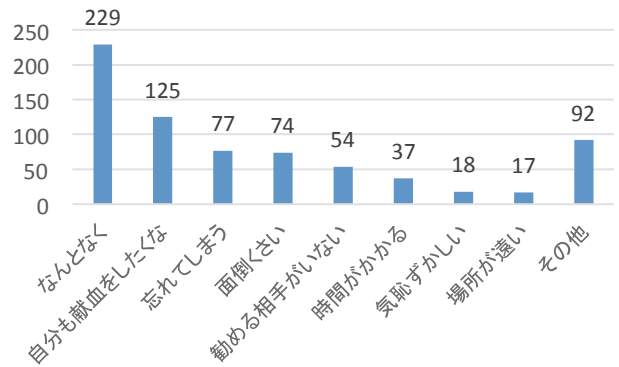


図10 他の人に献血を勧めない理由（複数回答）

13) 献血を敬遠しがちになる理由

献血を敬遠しがちになる理由について、「あり」と答えた人は417名(55.4%)、「なし」と答えた人は336名(44.6%)であった。

「あり」と答えた人の理由は「なんとなく不安」が152名と最も多く、次いで「針を刺すのが痛くて嫌だから」135名、「恐怖心」116名、「時間がかかる」101名、「献血する時間がない」69名、「献血している場所に入りづらかった」64名、「血をとられるのが嫌だ」63名、「健康上できないと思った」45名、「どこで献血できるかわからない」17名、「その他」75名であった。

その他の内訳としては、貧血であるため、採血が苦手、体重不足等であった。

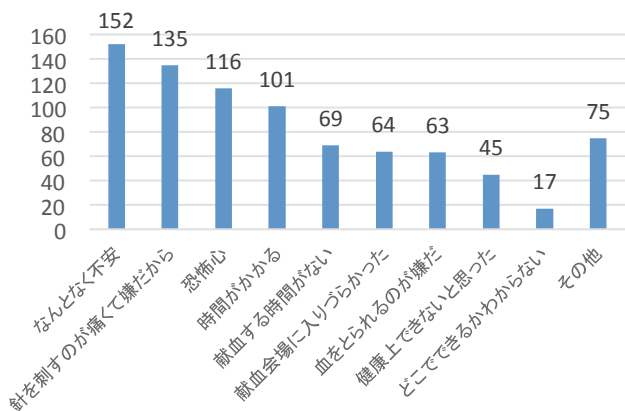


図11 献血を敬遠しがちになる理由（複数回答）

14) 輸血を受ける場合の気持ち

自分が輸血を受けたと想定して、考えにあてはまるものを選択した結果を図 12 に示す。

「輸血したことで体調が良くなる」について「大変そう思う～少しそう思う」が 537 名 (71.9%) 「思わない」が 210 名 (28.1%)。

「輸血したことで体に力が満ちてくる」について「大変そう思う～少しそう思う」が 486 名 (65.2%) 「思わない」が 259 名 (34.8%)。

「輸血したことで心に力が満ちてくる」について「大変そう思う～少しそう思う」が 542 名 (72.8%) 「思わない」が 202 名 (27.2%)。

「輸血したことで命が助かる」について「大変そう思う～少しそう思う」が 737 名 (98.9%) 「思わない」が 8 名 (1.1%)。

「輸血したことで治療(手術など)がうまくいく」について「大変そう思う～少しそう思う」が 722 名 (96.9%) 「思わない」が 23 名 (3.1%)。

「治療に必要であっても輸血はしたくない」について「大変そう思う～少しそう思う」が 213 名 (28.6%) 「思わない」が 533 名 (71.4%)。

「輸血はもったいないから 1 滴も無駄にできない」について「大変そう思う～少しそう思う」が 537 名 (72.5%) 「思わない」が 204 名 (27.5%)。

「輸血は時間がかかって苦痛だ」について「大変そう思う～少しそう思う」が 486 名 (65.3%) 「思わない」が 258 名 (34.7%)。

「じんま疹などの輸血の副作用が心配だ」について「大変そう思う～少しそう思う」が 630 名 (84.5%) 「思わない」が 116 名 (15.5%)。

「輸血したことで病気に感染することが心配だ」について「大変そう思う～少しそう思う」が 633 名 (84.7%) 「思わない」が 114 名 (15.3%)。

「輸血してくれる人は善意がある」について「大変そう思う～少しそう思う」が 733 名 (98.0%) 「思わない」が 15 名 (2.0%)。

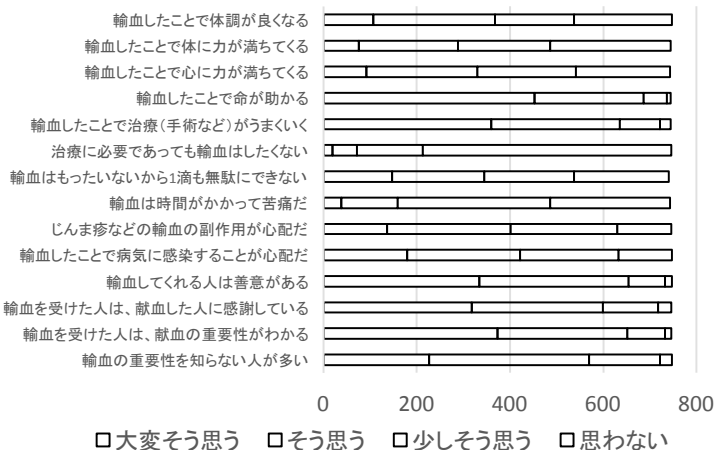


図 12 輸血を受ける場合の気持ち

「輸血を受けた人は、献血してくれた人に感謝している」について「大変そう思う～少しそう思う」が 718 名 (96.2%) 「思わない」が 28 名 (3.8%)。

「輸血を受けた人は、献血の重要性がわかる」について「大変そう思う～少しそう思う」が 732 名 (98.1%) 「思わない」が 14 名 (1.9%)。

「輸血の重要性を知らない人が多い」について「大変そう思う～少しそう思う」が 722 名 (96.7%) 「思わない」が 25 名 (3.3%) であった。

15) 大阪府内献血ルームにおけるイベントの認知

大阪府内献血ルームで行っているイベントの認知については、「献血後にアイスクリームサービス」が 169 名と最も多く、次いで「抹茶でくつろぎタイム」64 名、「ヘッドマッサージ」37 名、「ネイルケア」30 名、「アロマセラピー」28 名、「タロット占い」19 名、「手相占い」18 名、「耳つぼマッサージ」16 名、「パーソナルカラー診断」14 名、「似顔絵プレゼント」10 名、「メイクのアドバイス」8 名、「インディーズアーティストのライブ」「カイロプラクティック」各 7 名、「ファイナンシャルプランニング」3 名、「ボディジュエリー」2 名であった。

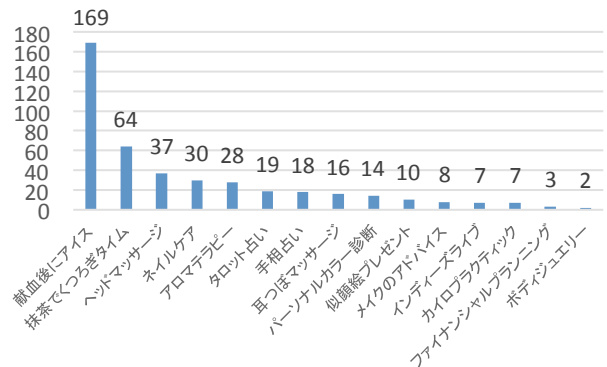


図 13 大阪府内献血ルームのイベント認知(複数回答)

16) 献血を広める活動への参加希望

献血を広める活動に参加したいと思いませんか、という設問で「はい」と答えた人が 314 名 (44.0%)、「いいえ」と答えた人が 399 名 (56.0%) であった。

	男性 (%)	女性 (%)	人数	%
はい	59 (18.8)	255 (81.2)	314	44.0
いいえ	158 (39.6)	241 (60.4)	399	56.0
合計	217 (30.4)	496 (69.6)	713	100.0

17) 献血経験別の献血できなかった経験とその理由

献血できなかった経験は、献血経験者に有意に多かった (P<0.001)。その理由において「献血間隔が短い」(P<0.01)、「献血制限がある国への渡航歴」(P<0.05) は、献血経験者が有意に多かった。

表 2 献血経験別の献血不可の経験とその理由

項目	これまでの献血経験			P値
	合計 人数 (%)	あり 人数 (%)	なし 人数 (%)	
血でできなかった経験の有無	あり 181 (35.8)	56 (50.0)	125 (31.7)	0.000***
血でできなかった理由	なし 325 (64.2)	56 (50.0)	269 (68.3)	0.624
・血色素量が低い	はい 121 (66.9)	20 (35.7)	40 (32.0)	0.023*
・体重が基準に満たない	はい 12 (30.0)	1 (9.1)	11 (37.9)	0.077
・服薬している	はい 28 (14.4)	9 (16.1)	17 (13.6)	0.661
・期間内に予防接種を受けた	はい 155 (85.6)	47 (83.9)	108 (86.4)	n.s.
・血圧が高い	はい 5 (2.8)	2 (3.6)	3 (2.4)	0.492
・献血間隔が短い	はい 176 (97.2)	54 (96.4)	122 (90.0)	0.008**
・輸血を受けた	はい 4 (2.2)	4 (7.1)	0 (0.0)	n.s.
・献血制限がある国への渡航歴	はい 177 (97.8)	52 (92.9)	125 (100.0)	0.012*
	はい 0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	はい 173 (95.6)	50 (89.3)	123 (98.4)	

*:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05, n.s.:not significant.

18) 献血経験別の献血を敬遠する理由

献血を敬遠しがちになる理由として、「時間がかかる」(P<0.05) は献血経験者に有意に多く、「なんとなく不安」(P<0.05)、「恐怖心」(P<0.01) を挙げたのは献血経験なしの者が多かった。

表 3 献血経験別の献血を敬遠する理由

項目	これまでの献血経験			P値
	合計 人数 (%)	あり 人数 (%)	なし 人数 (%)	
・時間がかかる	はい 101 (24.3)	15 (39.5)	86 (22.8)	0.023*
・献血する時間がない	はい 314 (75.7)	23 (60.5)	291 (77.2)	0.220
・針を刺すのが痛くて嫌だから	はい 69 (16.6)	9 (23.7)	60 (15.9)	0.222
・なんとなく不安	はい 346 (83.4)	29 (76.3)	317 (84.1)	0.039*
・恐怖心	はい 135 (32.5)	9 (23.7)	126 (33.4)	0.004**
・健康上できないと思った	はい 280 (67.5)	29 (76.3)	251 (66.6)	0.407
・献血場所に入りづらかった	はい 151 (36.4)	8 (21.1)	143 (37.9)	0.189
・血をとられるのが嫌だ	はい 284 (68.6)	30 (78.9)	254 (67.1)	0.189
・どこで献血できるかわからない	はい 116 (28.0)	3 (7.9)	113 (30.0)	0.527
	はい 298 (95.9)	37 (97.4)	361 (95.8)	

*:p<0.01, **:p<0.05

19) 献血経験別の献血者が増えると思う取り組み

献血者が増えると思う取り組みについては、「献血会場が身近にある」(P<0.001)、「誘い合う家族・仲間がいる」(P<0.05)、「短い時間で献血できる」(P<0.01)において献血経験ありの者が有意に多く、「職員が不安を聞いてくれる」(P<0.05)を挙げた者は献血経験なしが多かった。

表 4 献血経験別の献血者が増えると思う取り組み

項目	これまでの献血経験			P値
	合計 人数 (%)	あり 人数 (%)	なし 人数 (%)	
1. 献血会場が身近にある	はい 287 (38.0)	64 (54.7)	223 (34.9)	0.000***
2. 誘い合う家族・仲間がいる	はい 469 (62.0)	53 (45.3)	416 (65.1)	0.023*
3. 献血会場に入りやすい雰囲気	はい 465 (61.5)	61 (52.1)	404 (63.2)	0.752
4. 献血情報を得る機会が増える	はい 372 (49.2)	56 (47.9)	316 (49.5)	0.486
5. 短い時間で献血できる	はい 384 (50.8)	61 (52.1)	323 (50.5)	0.006**
6. 針の痛みが弱く感じられる	はい 194 (25.7)	27 (23.1)	167 (26.1)	0.374
7. 職員が不安を聞いてくれる	はい 562 (74.5)	90 (76.9)	472 (73.9)	0.043*
8. 自分の健康管理に役立つ	はい 319 (42.2)	63 (53.9)	256 (40.1)	0.557
	はい 437 (57.8)	54 (46.2)	383 (59.9)	
	はい 273 (36.1)	38 (32.5)	235 (36.8)	
	はい 483 (63.9)	79 (67.5)	404 (63.2)	
	はい 43 (5.7)	2 (1.7)	41 (6.4)	
	はい 713 (94.3)	115 (98.3)	598 (93.6)	
	はい 224 (29.6)	32 (27.4)	192 (30.0)	
	はい 532 (70.4)	85 (72.6)	447 (70.0)	

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

20) 男女別の献血経験と献血への意欲

男女別の献血経験と献血への意欲について、男性は、女性と比較して「献血をしたいと思ったことがあるか」について「いいえ」と答えた者が女性と比較して有意に多かった(P<0.05)。また、これまでの献血経験が「ない」者も女性と比較して有意に多かった(P<0.05)。

表 5 男女別の献血経験と献血への意欲

項目	合計		男性		女性		P値
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
献血をしたいと思ったことがある	はい 165 (40.5)	73 (35.3)	92 (46.0)	242 (59.5)	134 (64.7)	108 (54.0)	0.027*
これまでの献血経験	あり 116 (15.2)	26 (11.3)	90 (16.9)	なし 647 (84.8)	204 (88.7)	443 (83.1)	0.049*

*:p<0.05

21) 男女別の献血理由

男女別の献血理由について、女性の方が男性と比較して「友人に誘われたから」と答えた者が有意に多かった(P<0.05)。

表 6 男女別の献血理由

項目	合計			男性		女性		P値
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)		
1. 血液が誰かの役に立ってほしい	はい 72 (62.1)	14 (53.8)	58 (64.4)	いいえ 44 (37.9)	12 (46.2)	32 (35.6)	0.327	
2. 血液が不足しているから	はい 20 (17.2)	2 (7.7)	18 (20.0)	いいえ 96 (82.8)	24 (92.3)	72 (80.0)	0.118	
3. 血液検査の結果を知りたいから	はい 38 (32.8)	5 (19.2)	33 (36.7)	いいえ 78 (67.2)	21 (80.8)	57 (63.3)	0.095	
4. 粗品などがもらえるから	はい 49 (42.2)	9 (34.6)	40 (44.4)	いいえ 67 (57.8)	17 (65.4)	50 (55.6)	0.371	
5. 習慣になっているから	はい 3 (2.6)	0 (0.0)	3 (3.3)	いいえ 113 (97.4)	26 (100.0)	87 (96.7)	0.464	
6. 家族が輸血を受けた事がある	はい 13 (11.2)	3 (11.5)	10 (11.1)	いいえ 103 (88.8)	23 (88.5)	80 (88.9)	0.595	
7. 将来自分や家族が輸血するかもしれないから	はい 19 (16.4)	5 (19.2)	14 (15.6)	いいえ 97 (83.6)	21 (80.8)	76 (84.4)	0.428	
8. なんとなく	はい 21 (18.1)	7 (26.9)	14 (14.6)	いいえ 95 (81.9)	19 (73.1)	76 (85.4)	0.150	
9. 近くに献血車が来たから	はい 32 (27.6)	4 (15.4)	28 (31.1)	いいえ 84 (72.4)	22 (84.6)	62 (68.9)	0.114	
10. 友人に誘われたから	はい 30 (25.9)	2 (7.7)	28 (31.1)	いいえ 86 (74.1)	24 (92.3)	62 (68.9)	0.019*	

*:p<0.05

22) 男女別の献血できなかった経験の有無

男女別の献血できなかった経験の有無について、女性の方が男性と比較して献血できなかった経験が「ある」と答えた者が有意に多かった(P<0.01)。

表 7 男女別の献血できなかった経験の有無

項目	合計		男性		女性		P値
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
献血できなかった経験の有無	あり 180 (35.6)	21 (21.9)	159 (38.9)	なし 325 (64.4)	75 (78.1)	250 (61.1)	0.002**

*:p<0.01, **:p<0.05

23) 男女別の献血できなかった理由

男女別の献血できなかった理由について、女性の方が男性と比較して「血色素量が低い」と答えた者が有意に多かった(P<0.05)。

表 8 男女別の献血できなかった理由

項目	n=180(2,47n=40)				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 血色素量が低い	はい	60 (33.3)	2 (9.5)	58 (36.5)	0.014*
	いいえ	120 (66.7)	19 (90.5)	101 (63.5)	
. 体重が基準に満たない	はい	12 (30.0)	3 (23.1)	9 (33.3)	0.391
	いいえ	28 (70.0)	10 (76.9)	18 (66.7)	
. 服薬している	はい	26 (14.4)	4 (19.0)	22 (13.8)	0.358
	いいえ	154 (85.6)	17 (81.0)	137 (86.2)	
. 期間内に予防接種を受けた	はい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
	いいえ	40 (100.0)	13 (100.0)	27 (100.0)	
. 血圧が高い	はい	5 (2.8)	1 (4.8)	4 (2.5)	0.466
	いいえ	175 (97.2)	20 (95.2)	155 (97.5)	
. 献血間隔が短い	はい	4 (2.2)	2 (9.5)	2 (1.3)	0.068
	いいえ	176 (97.8)	19 (90.5)	157 (98.7)	
. 輸血を受けた	はい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
	いいえ	40 (100.0)	13 (100.0)	27 (100.0)	
. 献血制限がある国への渡航歴	はい	8 (4.4)	1 (4.8)	7 (4.4)	0.637
	いいえ	172 (95.6)	20 (95.2)	152 (95.6)	

p<0.05, n.s.:not significant.

24) 男女別の献血ルーム (献血車) の場所認知

男女別の献血ルーム (献血車) の場所認知について、女性の方が男性と比較して「知っている」と答えた者が有意に多かった (P<0.001)。

表 9 男女別献血ルームの場所認知

項目	n=691				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 献血ルーム (献血車) の場所を 知っているか	はい	369 (48.7)	82 (35.8)	287 (54.4)	0.000***
	いいえ	388 (51.3)	147 (64.2)	241 (45.6)	

*:p<0.001

25) 男女別の献血情報の入手経路

献血情報の入手経路について、男女別で有意な差はみられなかった。

表 10 男女別献血情報の入手経路

項目	n=691				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
ポスター	はい	293 (42.4)	82 (43.4)	211 (42.0)	0.748
	いいえ	398 (57.6)	107 (56.6)	291 (58.0)	
インターネット・スマホ・携帯	はい	81 (11.7)	27 (14.3)	54 (10.8)	0.199
	いいえ	610 (88.3)	162 (85.7)	448 (89.2)	
テレビ	はい	17 (2.5)	2 (1.1)	15 (3.0)	0.114
	いいえ	674 (97.5)	187 (98.9)	487 (97.0)	
ラジオ	はい	1 (0.1)	1 (0.5)	0 (0.0)	0.274
	いいえ	690 (99.9)	188 (99.5)	502 (100.0)	
新聞	はい	7 (1.0)	2 (1.1)	5 (1.0)	0.613
	いいえ	684 (99.0)	187 (98.9)	497 (99.0)	
雑誌	はい	3 (0.4)	1 (0.5)	2 (0.4)	0.617
	いいえ	688 (99.6)	188 (99.5)	500 (99.6)	
口コミ	はい	133 (19.2)	28 (14.8)	105 (20.9)	0.070
	いいえ	558 (80.8)	161 (85.2)	397 (79.1)	
校内放送	はい	42 (6.1)	15 (7.9)	27 (5.4)	0.210
	いいえ	649 (93.9)	174 (92.1)	475 (95.6)	

26) 男女別の献血に関する知識

男女別の献血に関する知識について、若年層の献血減少を知っている者は女性の方が有意に多く (P<0.05)、成分献血の基準を知っている者も女性の方が有意に多かった (P<0.001)。

表 11 男女別の献血に関する知識

項目	n=750				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 17歳層の献血減少を知っている	はい	327 (43.0)	86 (37.6)	241 (45.3)	0.048*
	いいえ	434 (57.0)	143 (62.4)	291 (54.7)	
. 成分献血は血色素量の基準が 高い事を知っているか	はい	78 (10.5)	9 (3.9)	69 (13.4)	0.000***
	いいえ	666 (89.5)	219 (96.1)	447 (86.6)	

*:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

27) 男女別の献血を敬遠しがちになる理由

献血を敬遠しがちになる理由について、男女別で有意な差は見られなかった。

表 12 男女別の献血を敬遠しがちになる理由の有無

項目	n=750				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 献血を敬遠しがちになる理由	あり	415 (55.3)	130 (58.3)	285 (54.1)	0.288
	なし	335 (44.7)	93 (41.7)	242 (45.9)	

表 13 男女別の献血を敬遠する理由

項目	n=414				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 時間がかかる	はい	100 (24.2)	31 (23.8)	69 (24.3)	0.921
	いいえ	314 (75.8)	99 (76.2)	215 (75.7)	
. 献血する時間がない	はい	69 (16.7)	16 (12.3)	53 (18.7)	0.107
	いいえ	345 (83.3)	114 (87.7)	231 (81.3)	
. 針を刺すのが痛くて嫌だから	はい	135 (32.6)	40 (30.8)	95 (33.5)	0.589
	いいえ	279 (67.4)	90 (69.2)	189 (66.5)	
. なんとなく不安	はい	151 (36.5)	48 (36.9)	103 (36.3)	0.898
	いいえ	263 (63.5)	82 (63.1)	181 (63.7)	
. 恐怖心	はい	116 (28.0)	32 (24.6)	84 (29.6)	0.297
	いいえ	298 (72.0)	98 (75.4)	200 (70.4)	
. 健康上できないと思った	はい	44 (10.6)	9 (6.9)	35 (12.3)	0.098
	いいえ	370 (89.4)	121 (93.1)	249 (87.7)	
. 献血場所に入りづかった	はい	63 (15.2)	14 (10.8)	49 (17.3)	0.088
	いいえ	351 (84.8)	116 (89.2)	235 (82.7)	
. 血をとられるのが嫌だ	はい	63 (15.2)	21 (16.2)	42 (14.8)	0.720
	いいえ	351 (84.8)	109 (83.8)	242 (85.2)	
. どこで献血できるかわからない	はい	17 (4.1)	7 (5.4)	10 (3.5)	0.375
	いいえ	397 (95.9)	123 (94.6)	274 (96.5)	

28) 男女別の献血を他者に勧めた経験と勧めた人

献血を他者に勧めた経験が「ある」と答えた者は、女性の方が男性と比較して有意に多かった (P<0.001)。また、勧めた人を「知人」と答えた者は、男性の方が女性と比較して有意に多かった (P<0.05)。

表 14 男女別の献血を人に勧めた経験

項目	n=748				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 献血を他の人に勧めていますか	はい	95 (12.7)	9 (4.0)	86 (16.4)	0.000***
	いいえ	653 (87.3)	215 (96.0)	438 (83.6)	

**p<0.001

表 15 男女別の献血を勧めた人との関係

項目	n=95				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 家族	はい	30 (31.6)	1 (11.1)	29 (33.7)	0.156
	いいえ	65 (68.4)	8 (88.9)	57 (66.3)	
. 親戚	はい	2 (2.1)	0 (0.0)	2 (2.3)	0.819
	いいえ	93 (97.9)	9 (100.0)	84 (97.7)	
. 友人	はい	81 (85.3)	7 (77.8)	74 (86.0)	0.395
	いいえ	14 (14.7)	2 (22.2)	12 (14.0)	
. 恋人	はい	10 (10.5)	0 (0.0)	10 (11.6)	0.350
	いいえ	85 (89.5)	9 (100.0)	76 (88.4)	
. 同僚・職場の人	はい	2 (2.1)	1 (11.1)	1 (1.2)	0.181
	いいえ	93 (97.9)	8 (88.9)	85 (98.8)	
. 知人	はい	4 (4.2)	2 (22.2)	2 (2.3)	0.044*
	いいえ	91 (95.8)	7 (77.8)	84 (97.7)	

p<0.05

29) 男女別の献血を勧めない理由

献血を勧めない理由について、男性の方が女性と比較して「面倒くさい」と答えた者が有意に多く (P<0.001)、「気恥ずかしい」と答えた者も男性に有意に多かった (P<0.01)。

表 16 男女別の献血を勧めない理由

項目	n=578				
	合計 人数 (%)	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)	P値	
. 1. 自分も献血をしたくないから	はい	124 (21.5)	40 (21.6)	84 (21.4)	0.946
	いいえ	454 (78.5)	145 (78.4)	309 (78.6)	
. 2. 面倒くさい	はい	74 (12.8)	43 (23.2)	31 (7.9)	0.000***
	いいえ	504 (87.2)	142 (76.8)	362 (92.1)	
. 3. なんとなく	はい	228 (39.4)	62 (33.5)	166 (42.2)	0.045*
	いいえ	350 (60.6)	123 (66.5)	227 (57.8)	
. 4. 気恥ずかしい	はい	18 (3.1)	11 (5.9)	7 (1.8)	0.007**
	いいえ	560 (96.9)	174 (94.1)	386 (98.2)	
. 5. 忘れてしまう	はい	77 (13.3)	21 (11.4)	56 (14.2)	0.339
	いいえ	501 (86.7)	164 (88.6)	337 (85.8)	
. 6. 勧めの相手がない	はい	54 (9.3)	17 (9.2)	37 (9.4)	0.931
	いいえ	524 (90.7)	168 (90.8)	356 (90.6)	
. 7. 場所が遠い	はい	17 (2.9)	3 (1.6)	14 (3.6)	0.198
	いいえ	561 (97.1)	182 (98.4)	379 (96.4)	
. 8. 時間がかかる	はい	37 (6.4)	10 (5.4)	27 (6.9)	0.502
	いいえ	541 (93.6)	175 (94.6)	366 (93.1)	

p<0.001, *:p<0.001, *:p<0.05

30) 男女別の献血者が増えると思う取り組み

男女別の献血者が増えると思う取り組みについて、女性の方が「献血会場が身近にある」(P<0.001)、「誘い合う家族・仲間がいる」(P<0.05)、「献血会場に入りやすい雰囲気」(P<0.001)、「献血情報を得る機会が増える」(P<0.05)が有意に多かった。

表 17 男女別の献血者が増えると思う取り組み

項目	合計		男性		女性		P値
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
1. 献血会場が身近にある	287	(38.0)	65	(28.9)	222	(41.9)	0.000***
	468	(62.0)	160	(71.1)	308	(58.1)	
2. 誘い合う家族・仲間がいる	290	(38.4)	72	(32.0)	218	(41.1)	0.018*
	465	(61.6)	153	(68.0)	312	(58.9)	
3. 献血会場に入りやすい雰囲気	371	(49.1)	84	(37.3)	287	(54.2)	0.000***
	384	(50.9)	141	(62.7)	243	(45.8)	
4. 献血情報を得る機会が増える	193	(25.6)	46	(20.4)	147	(27.7)	0.036*
	562	(74.4)	179	(79.6)	383	(72.3)	
5. 短い時間で献血できる	319	(42.3)	74	(32.9)	245	(46.2)	0.000***
	436	(57.7)	151	(67.1)	285	(53.8)	
6. 針の痛みが弱く感じられる	272	(36.0)	75	(33.3)	197	(37.2)	0.315
	483	(64.0)	150	(66.7)	333	(62.8)	
7. 職員が不安を聞いてくれる	43	(5.7)	10	(4.4)	33	(6.2)	0.334
	712	(94.3)	215	(95.6)	497	(93.8)	
8. 自分の健康管理に役立つ	224	(29.7)	65	(28.9)	159	(30.0)	0.760
	531	(70.3)	160	(71.1)	371	(70.0)	

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

31) 男女別の献血啓発への意欲

男女別の献血啓発活動への意欲について、女性の方が「参加したい」と答えた者が有意に多かった (P<0.001)

表 18 男女別の献血啓発への意欲

項目	合計		男性		女性		P値
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
血を広める活動に参加したい	314	(44.0)	59	(27.2)	255	(51.4)	0.001***
思う	399	(56.0)	158	(72.8)	241	(48.6)	

***:p<0.001

考察

2013年の10代・20代の献血者数は約127万人で、10年前と比較して32%減少している(日本赤十字社)。今回の調査においても、「献血したいと思っただけか」という設問に対し、「いいえ」と回答した者が242名(59.5%)であったことや、「献血を敬遠しがちになる理由はありますか」という設問に対し、「あり」と答えた者が55.4%と過半数を占めていることから、若者の献血離れが示唆される結果となった。

これまでに献血経験のある者は回答者全体の15.1%であったが、2015年度血液事業年報による献血率は、16～19歳で4.3%、20～29歳で6.1%であり、本アンケート回答者は献血実施率が高い集団であるといえる。これは、回答者が大学生であるため、比較的行動範囲が広く、時間にも余裕があることや、所属する学部が医歯薬看護系を含んでいたことが影響していると考えられる。

初めて献血した平均年齢は18.4±1.8歳であった。献血行動をとる若者は、高校卒業前後に開始していると考えられるため、高校在学中に具体的な献血の流れを視覚的に情報提供することが有効であると考えられる。

献血できなかった経験のある者は179名(23.3%)であった。その理由として体重や血色素量の不足、服薬等の身体的理由が大半であった。また、献血できなかった経験をもつ者の中で、理由に「血色素量の不足」を挙げた者は女性が有意に多かった。青年期の健康管

理という観点からも、血色素量を高める食生活改善に向けた働きかけが必要である。

献血車等の情報入手経路の上位3項目は、「ポスター」(47.8%)、「口コミ」(21.6%)、「ネット・スマホ・携帯」(13.1%)であった。献血したいと考える者は、インターネット等で積極的に献血場所等の情報を得ていると考えられるが、それほど積極的でない若者に働きかけることができるのは普段目に触れる「ポスター」や、友人からの「口コミ」であることが示唆された。

献血を敬遠する理由で最も多かったのは「なんとなく不安」であり、献血を他の人に勧めない理由も「なんとなく」であった。このような漠然とした不安や抵抗感を払拭するためのアプローチが必要である。「献血をする人が増えると思う取り組み」において、施設や時間というハード面に次いで多かったのは「誘い合う家族・仲間がいる」であった。また、献血を最も多く勧めているのは「友人」であったことから、友人同士で誘い合って献血に行くことのできる環境づくりが重要である。

献血経験有無別の比較において、献血を敬遠する理由に献血経験者は「時間がかかる」を挙げた者が有意に多く、献血者が増える取り組みとして「短い時間で献血できる」と答えた者が有意に多かった。このため、献血経験がある者に対しては、現在の待ち時間や献血所要時間を伝えることが、効果的であると考えられる。一方、献血経験なしの者は、敬遠する理由に「何となく不安」、「恐怖心」を挙げた者が多く、献血者が増える取り組みとして「職員が不安を聞いてくれる」と答えた者が有意に多かった。このことから、初めて献血を行なう若者に対しては特に、職員の丁寧な対応による不安の緩和が必要である。

男女別の比較において、男性は献血をしたいと思う者が有意に少なく、献血に関する知識も乏しいことから、輸血を受けるのはどういった人なのか、献血した血液はどのように使われるのか等を具体的に示すことで、献血への関心を持ってもらうことが必要である。

女性は、「友人に誘われて」献血する者や、他者に献血を勧めたり、啓発活動に興味を持つ者が男性より有意に多かった。このことから、貧血対策とあわせて、献血会場や日時の周知を行い、仲間同士で誘い合うことのできるような環境づくりを行なうことがより有効であることが示唆された。

II. 学園祭での献血バス配車・ボランティアによる啓発

5/29(日)に行われた学園祭にて、献血バスを配車した。時間は 10:00～16:00、受付 64 名、採血者数 38 名(内訳 400ml 34 名、200ml 4 名)であった。

また、当日学生献血ボランティアによる献血啓発活動を実施した。参加学生は 9 名、活動時間は 10:00～16:00 とした。

学生の反省・感想

- ・献血のイメージが、針を刺す痛いものであり、やりたくないと思っている。
- ・学生が呼び掛けているため、献血を学生がするのかと不安を感じる人がある。
- ・年間上限や次回予定日などの知識が不足していた。

改善点

- ・呼びかけ情報をみんなで統一する。
- ・チラシに塗り絵や間違い探し問題をつけ、子ども連れのお母さんに受け取ってもらいやすい内容にする。



図 1 学園祭当日の啓発の様子

III. 献血サポート薬局の取り組み

目的

20 代、30 代の若年層の血液提供者が初回・複数回ともに減少している。このことから、本事業の目的は献血後に説明を希望する献血者に対して、献血後に送付される血液検査値について薬局で解説してもらうことで自己の健康管理に活用するスキームを構築することである。

本事業の利点は以下の 2 つである。

1. 医療機関にかかることの少ない若年層の血液提供者の健康管理の一環として採血の検査結果の解析、説明を薬局で行うこと及び若干の検査値変動はあるが生活習慣等の改善をすることで、通院する必要がない未病者の健康管理にも役立つと考えられる。

2. 国が推進している誰でも気軽に健康相談できる健康情報拠点たる薬局(「かかりつけ薬局」)を浸透させ、かつ、献血が提供者自身の健康管理にも役立つとの認

識を深めることができる。

献血サポート薬局の認定

献血サポート薬局については、①大阪府赤十字血液センター主催の講習会を受講する、②マニュアルと献血サポート薬局認定書を交付する、③薬局から送付された同意書を受理、④献血サポート薬局のロゴシール、啓発物品等の交付の流れで行っている。

活動状況

これまでの活動状況として、管内 366 薬局中、講習会参加薬局は 166 か所(45.4%)、同意書提出薬局は 133 か所(42.8%)である。本取り組みは市町村広報誌においても周知している。



図 2 献血サポート薬局周知カード

健康危険情報

該当なし

研究発表

- 1) 論文発表
該当なし

- 2) 学会発表

I. 献血・輸血に関するアンケートの実施

II. 学園祭での献血バス配車・ボランティアによる啓発

- 1 Satoko Okawa, Risa Yasumoto, Sayumi Negoro, Masae Ueno, Educating young people about blood donation: Focusing on populations who do not donate blood. The 3rd Korea-Japan joint conference on community health nursing, Busan, 2016.

- 2 大川聡子, 安本理抄, 根来佐由美, 上野昌江, 若者の献血実態を踏まえた献血ボランティア育成プログラムの評価, 第 19 回日本地域看護学会, 栃木, 2016.

- 3 眞壁美香, 大川聡子, 安本理抄, 根来佐由美, 上野昌江, 性差に着目した若者の献血に関する実態及び意識, 第 5 回日本公衆衛生看護学会, 仙台, 2017.

III. 献血サポート薬局の取り組み

- 1 磯野元三, 献血サポート薬局、はじめました, 第 19 回近畿薬剤師学術集会, 大阪, 2016.

知的財産権の出願・取得状況

該当なし